ザハーロワ「ジゼル」／コジョカル／世界バレエフェス特集

平成3年8月24日第3種郵便物認可　平成27年6月1日発行（毎月1回1日発行）第25巻第6号

DANCE MAGAZINE

ダンスマガジン

JUNE 2015
1500YEN
6

プレビュー総力特集

世界バレエフェスティバル

この夏、開幕！ コジョカル、ゲラン、モロー、ルグリら出演スターたちにインタビュー！

公演レポート&インタビュー

ザハーロワ&ボッレ 東京バレエ団「ジゼル」

ダンスマガジン・インタビュー

小野絢子

SHINSHOKAN

「ピアノ・レッスン」 上：エミリー・ギュイエン、ドミトリー・セミオノフ　下段左から：エミリー・ギュイエン、ドミトリー・セミオノフ／エミリー・ギュイエン、アルセン・メラビアン／エミリー・ギュイエン、ケーシー・ホスキンズ From left to right: Emilie Nguyen and Dmitry Semionov. Emilie Nguyen and Arsen Mehrabyan. Emilie Nguyen and Casey Hoskins. Top: Emilie Nguyen and Dmitry Semionov in *The Piano*. Photos ©Bettina Stöß

く心を惹かれることになる。裏切りに気づいた夫アリステア（ドミトリー・セミオノフの怒りのソロは、その狂気と紙一重の激しい表現力で見応えがあった）が、妻の指を切り落とす場面は衝撃的である。しかも妻は口がきけず、ただピアノの演奏でしか自分の感情を表現できないのである。ブベニチェク兄弟はそれをそのまま、説得力ある濃密な雰囲気の舞台上に表現してみせた。

イリと、舞台美術およびビデオ映像を担当するオットーは、オスカーを授賞した映画の舞台となった場所を訪れた。そこで撮影した映像を持ち帰り、二枚の可動式パネルに映し出して、ダンサーをそのつどふさわしい背景で囲んだ。音響には、現地で録音した音を、マイケル・ナイマンの音楽をはじめ、ショスタコーヴィチ、アイヴズ、アレンスキーらの音楽、そしてマオリ族の伝統音楽とミックスして使用した。オットーは、音と空間デザインの専門家としてこの作品にかかわっている。エルザ・パヴァネルによる贅沢な当時の昔ながらの衣裳もまた、映画をバレエ化した作品にさらに詩的な魅力を加えていた。

映画と同じように舞台上でも、相反する感情と生活様式が激しくぶつかり合う。ダイナミックな作品全体の緊張感に彩りを加えたのは、コメディ的要素と滑稽な登場人物たち、たとえばイェレーナ・シュトゥーパー演じる叔母や、陽気なキャンベル神父に扮したアルセン・アザティアンの演技である。ブベニチェク兄弟は、マオリ舞踊や農民たちや水夫たちの群舞を織り交ぜることによって、切れ目のないなめらかな舞台構成を作り上げていた。これらのアンサンブルは、ジョージとエイダが少しずつ互いを意識し始める感動的なパ・ド・ドゥの場面を、ときに品よくさえぎることもあった。束の間だが、それだけに強く触れ合う二人。そのいっぽうで、はじめは拒絶していたアリステアもまたエイダに近づこうと試みるものの、もはや彼女の心に触れることはできない。

ダンサーの素晴らしい舞台にすっかり魅了された観客は、スタンディング・オヴェーションで感謝を表した。（訳・末松淑美）

「ピアノ・レッスン」 上：エミリー・ギュイエン、ドミトリー・セミオノフ　下段左から：エミリー・ギュイエン、ドミトリー・セミオノフ／エミリー・ギュイエン、アルセン・メラビアン／エミリー・ギュイエン、ケーシー・ホスキンズ From left to right: Emilie Nguyen and Dmitry Semionov. Emilie Nguyen and Arsen Mehrabyan. Emilie Nguyen and Casey Hoskins. Top: Emilie Nguyen and Dmitry Semionov in *The Piano*. Photos ©Bettina Stoß

く心を惹かれることになる。裏切りに気づいた夫アリステア（ドミトリー・セミオノフの怒りのソロは、その狂気と紙一重の激しい表現力で見応えがあった）が、妻の指を切り落とす場面は衝撃的である。しかも妻は口がきけず、ただピアノの演奏でしか自分の感情を表現できないのである。ブベニチェク兄弟はそれをそのまま、説得力ある濃密な雰囲気の舞台上に表現してみせた。

イリと、舞台美術およびビデオ映像を担当するオットーは、オスカーを授賞した映画の舞台となった場所を訪れた。そこで撮影した映像を持ち帰り、二枚の可動式パネルに映し出して、ダンサーをそのつどふさわしい背景で囲んだ。音響には、現地で録音した音を、マイケル・ナイマンの音楽をはじめ、ショスタコーヴィチ、アイヴズ、アレンスキーらの音楽、そしてマオリ族の伝統音楽とミックスして使用した。オットーは、音と空間デザインの専門家としてこの作品にかかわっている。エルザ・パヴァネルによる贅沢な当時の昔ながらの衣裳もまた、映画をバレエ化した作品にさらに詩的な魅力を加えていた。

映画と同じように舞台上でも、相反する感情と生活様式が激しくぶつかり合う。ダイナミックな作品全体の緊張感に彩りを加えたのは、コメディ的要素と滑稽な登場人物たち、たとえばイェレーナ・シュトゥーパー演じる叔母や、陽気なキャンベル神父に扮したアルセン・アザティアンの演技である。ブベニチェク兄弟は、マオリ舞踊や農民たちや水夫たちの群舞を織り交ぜることによって、切れ目のないなめらかな舞台構成を作り上げていた。これらのアンサンブルは、ジョージとエイダが少しずつ互いを意識し始める感動的なパ・ド・ドゥの場面を、ときに品よくさえぎることもあった。束の間だが、それだけに強く触れ合う二人。そのいっぽうで、はじめは拒絶していたアリステアもまたエイダに近づこうと試みるものの、もはや彼女の心に触れることはできない。

ダンサーの素晴らしい舞台にすっかり魅了された観客は、スタンディング・オヴェーションで感謝を表した。（訳・末松淑美）